

令和元年度

事業所名： グループホーム 愛宕の丘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム 愛宕の丘		
所在地	〒027-0093 岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	令和元年6月19日	評価結果市町村受理日	令和1年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がゆったりとした環境の中で生活できるように普段から意識している。
具体的な部分に関しては利用者様に対しての声掛け又コミュニケーション等であります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0390200160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から坂を上がった住宅団地内の閑静な環境にある開所8年目の事業所である。理念である「ひとりの心を見つめるケア」に沿って掲げる「生活歴を振り返り、生きてきた時代の環境等を理解し、個々に合わせたケア」を行うことを具体的な方針として、日々の介護に当たり、同時に利用者同士の穏やかで支え合う集団作りに配慮している。自治会の会員として地域との関係を重視し、非常時に際しても運営推進委員の協力が得られる体制が出来ている。利用者や家族の要望に応え、終末期対応では医療、看護、介護の連携体制を整え看取り介護に取り組んでいる。管理者を中心に支え合い高め合いながら日々介護力の向上に取り組んでいる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年7月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム 愛宕の丘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を共有し実践につなげている。利用者様個々に合わせた声掛け又コミュニケーションの取り方を意識して行っている。	開所時に定めた法人の理念・姿勢が、ホールの入口に掲示され、利用者個々に合わせた声掛けやふれあいの在り方について、職員会議で確認し理念である「ひとりの心を見つけるケア」の具体的な支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地域のボランティア様の受け入れ又、地域で行われた花植えや清掃活動に参加している。	自治会に加入し、回覧板などで案内のある草取り、花植え、ごみ拾いなどの行事に参加している。近くの保育園との交流や社会福祉協議会から紹介されたボランティアの受け入れなど、地域と触れ合う機会の確保に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域支援推進員や同じ地区のグループホームの職員と共に鎌ヶ崎小学校に出向いて、認知症の講座又寸劇を演じて認知症普及啓発の取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されているグループホーム又他の関係機関からの情報を職員に周知行っている。	会議の委員は、自治会長、民生委員、保育園長、駐在所員、看護師、家族代表、利用者、他のグループホームの職員と多様である。利用者の状況、行事等の様子、ヒヤリハットに加え、参加者が共通して関心を持っている感染症などの課題をテーマとし、会議が双方向となる様に工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議に参加して頂いて、事業所への助言又地区で開催されている関係する催しものの情報を頂いている。	生活保護の受給者や成年後見制度の利用者がおり、管理者が直接出向いて相談や報告を行うなど、行政の担当職員と連携を図って対応している。行政が主催する認知症講座やキャラバンメイト活動を通じて、行政との密接な係わりを築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵や施錠等の身体拘束は行っていない。声掛けで疑問を持ったものに関しては定期的開催される身体拘束委員会にて話し合いを行い、議論して結果を職員に周知行っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」ファイルが、玄関に常備されている。身体拘束対策委員会が、3か月に1回、統括部長、管理者、職員、同法人のグループホーム管理者及び居宅介護支援事業所のケアマネージャーをメンバーに開催されている。その内容は職員会議や内部研修で周知、徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛けに対して意識を行い、違和感がある対応又些細な事でもみんなて話をする他、身体拘束委員会にて話をする機会を設けている。話し合った内容は会議等で情報の周知を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ごく一部ではあるが、権利擁護について学ぶ機会を自ら作り必要性の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前や契約時に説明後、いつでも連絡を頂き対応する旨を伝え不安の軽減を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ご家族様から感謝の気持ちやお手紙を頂いた時には職員全体で情報の周知をすることでモチベーションに繋げるよう努力している。	毎月、利用者の“日常の様子”を担当が書き家族へ届けている。意見や要望は、面会来所時や通院介助後に聞き取る様努めている。「生ウニを食べさせたい」との家族の声を受け、生物原則禁止であるが職員間で話し合い実現させるなど弾力的対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議等で職員から挙がってくる意見や要望等には可能な限り向き合い業務に反映させている。	管理者は、全職員との個別面談を年1回実施し、職員の意見・要望の把握を行っている。食事の席の変更、蓋付き食器の使用、ホールへの採光の工夫など、快適な生活を提供できるよう職員のアイデアや気づきを事業所の運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の職員とのコミュニケーションを図るのはもちろんの事、管理者会議等での施設職員の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実習や外部の研修の受講に関して積極的に行くことを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や研修等で他の福祉関係者との交流をすることを勧めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様自身が表現していることを理解でき、安心して頂けるような対応を行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が話をする事又不安な部分はどこなのか理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態の把握に努め、利用者様に合わせたケアプラン作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食後には利用者様と食器やお盆拭き等の共同での家事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた時や電話が来た際には出来る限り利用者様の最近の様子や情報を伝達している。 1ヶ月に1回発送する愛宕の丘のお便りで利用者様の状態を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅についてご家族様と面会したり、なじみのある美容室に行って髪を切るなど可能な限りの対応を図っている。	本人や家族との話の中から、馴染みの人や場の把握に努めている。家族の協力を得て、自宅に戻り家族と過ごしたり、馴染みの美容院を利用される方もいる。お盆の墓参りや通院後に自宅付近に寄り道するなど、入居前の生活との係わりを継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関係性を理解又把握を行いながら席がえを行い支援に努めている。トラブルが起こりそうときには職員が早急に間に入るなどの対応を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、あった際には声をかける又利用者様への面会を行い、切れ目のない支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスが終了しても、ご家族様の相談があった際には快く対応を行っている。	日々の関わりや家族の情報から思いや意向の把握に努めている。言葉や文字だけでなく、絵や写真を用いたり利用者の表情や眉間にしわを寄せる仕草から意思を読み取り、利用者が有する能力や知識を活かした支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様個々の特徴の把握に努め対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日、排泄等のリズムの把握を行い現状の身体的能力の面だけではなく、メンタルの状態も意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや職員間でのコミュニケーションを図ることで利用者様の状態や変化を把握して介護計画の作成を行っている。	居室担当職員が家族へ毎月「お知らせ」を送付し、利用者の状況を報告するとともにサービス実施評価も行っている。3～6カ月に一回の間隔で、ケアマネ、管理者、居室担当による担当者会議を開催している。プランの継続又は見直しされた原案を管理者は、家族の来所時や自宅訪問し説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務日誌の他申し送りで気づいた部分やアイデアを出し合い介護計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者様の習慣・体調等それぞれに合わせたケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	頻度はとても少ないが同じ地区の花植え等に参加して、ご本人様が持っている能力を活用することが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様が入居前から通っていたかかりつけ医に診て頂いている。	全員が入居前からのかかりつけ医に職員同行で受診し、結果を家族に伝えている。必要時には家族の同行もお願いしている。かかりつけ薬局から処方薬が配達されており、何でも相談できる関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に月曜日と木曜日に訪問看護師に来ていただき見て頂いている。 通院の判断が不十分な時に連絡を行い判断を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、1週間に1、2回病院にあしをはこび 利用者様と面会を行い医療機関からの情報の収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者ご家族様と普段から通院の報告などを行いながらコミュニケーションをとり今後のこともききながら悪化した場合、必要時かかりつけ医と連携し、往診に切り替えることもある。	入居に先立って「重度化した場合(看取り)における指針」を家族に説明している。看取り時期に至った場合には、かかりつけ医や週2回来訪する看護師と話し合った上で、再度、家族に説明し対応を決めている。管理者は看取りの経験があり、利用者が見慣れた人や環境の中で最期を迎えることの出来るケアの実現のため、看護師や往診医師と連携して取り組んでいる。	利用者や家族の「住み慣れた所で最期を過ごしたい」とのニーズを受け、医療・看護と連携して看取りを行っている。新しい職員の中には経験のない方もおり、重度化や終末期ケアの継続と一層の充実を図るため、専門職や経験者を講師とする研修を重ねられることを期待される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故マニュアルを作成し、職員が対応できるように努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練を行い緊急時の対応を図れるように努力をしている。運営推進会議などでの近隣住民との関係性を務めながら支援体制の構築を行っている。	市から配置された防災ラジオを通じ災害情報もたらされ、緊急通報システムには管理者の他、自治会長や運営推進会議委員も網羅した連絡網が整備されている。夜間は、夜勤者1名に加え宿直者1名がおり、非常時にも備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関して利用者様が不快な思いをしないように常に意識しながら対応を行っている。	利用者一人一人の人格を尊重し、業務はゆっくり丁寧に行い、穏やかな声掛けに努めている。利用者が不快と受け止めるような声掛けなどは、職員同士で注意し合い、場合によって身体拘束対策委員会で検討している。個人の記録は、ファイルに綴じ整理し管理している。	利用者の羞恥心に配慮し、トイレ使用時は適度な距離を保つように配慮している。一方で、共同生活にあって居室、トイレ等、必要に応じ他者の視線に馴染まないことが多々ある利用者のプライバシー空間の在り方について、改めて検討されることが期待される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の気持ちや言葉の傾聴を行いながら利用者様の要望や訴えには可能な限り対応を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで支援を行っている。眠そうであれば居室で休んで頂く等言葉だけではなく様子から現在の利用者様の状態の把握を行い支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることはできているが、おしゃれに関しては出来ていない。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後には食器の片づけを利用者様と職員と共に行っている。	調理担当の職員が、食材の在庫状況に合わせて献立を立てている。便秘予防のため食物繊維の多い野菜やチーズを使っている。利用者は、下ごしらえ、片付け、食器拭きを進んで手伝っている。誕生日や季節の行事の際には、利用者のリクエストでメニューを決めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様が食事が進まないときには好みのものの提供を行っている。 プルーンや寒天など食物繊維が接種できるように食事の提供を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。 利用者様によっては見守り、又利用者様によっては仕上げ磨きを行うことにより口腔内の衛生に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見ながら利用者様へのトイレの声掛け、トイレ誘導を行っている。その他食物繊維等の提供を行いながら排便を促す取り組みを行っている。	日中は布パンツが2名で、他はリハビリパンツとパットを利用している。居室でのポータブルトイレ使用はなく、全員がトイレを利用している。排泄の自立に向け、排泄チェック表により、見守り、声掛け、誘導等の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	プルーンや寒天又食物繊維の粉等の購入提供を行っている。可能な限り下剤を減らす取り組みを図っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の訴えが強い時には、タイミングを合わせて入浴をしていただいている。時間帯に関しては午前中と決まってしまう。	原則週2回の入浴としている。機械浴槽もあるが、現在、利用者はいない。入浴剤で香りや色を楽しんでいる。毎日足湯を行い清潔の保持に努めている。入浴を避けたい利用者には、時間を置いて再度声掛けを行うなど、工夫しながら、無理強いすることのない対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態を観察し、眠気が強い時には居室へ誘導して休んで頂く等の配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変更になった際には、副作用又薬局様からの薬の情報を意識しながら症状を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、食器をふくなどの家事全般の役割を持っていただきながら生活をしていただいている。 楽しみに関しての支援は今後工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力して頂きながら、ご自宅に宿泊したりご自宅時遊びに行ったり支援をさせて頂いている。	近くの公園や商店へ散歩し出向いたり、保育園行事を見学している。家族と外出し自宅付近に行ったり、墓参りをされる方もいる。週3回近くに移動販売車が来ており、今後気分転換や買い物を兼ね外出する機会を増やすこととしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様ご自身がお金の所持をするということとはトラブル防止の為行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が携帯電話を所持し、自ら電話をしたりできるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前よりも共用の空間に光を取り入れるように意識を行い、温度や湿度に関しても職員の意識が向いている。職員がゆっくりと業務を行うように常に心掛けている。	吹き抜けの天窓から陽光が注ぐ明るい広々としたホールで、食卓3卓、畳の小上がり、対面キッチンが配置されている。エアコン、パネルヒーターと加湿器で快適な温度・湿度が保たれている。利用者の願いを書いた短冊が付けられた七夕飾りが季節感を出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる置の場所を確保している。利用者様同士で語れるように利用者様の組合せを考慮して席を準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたくしや鏡等を居室又は取れる場所に置いている。居室にはご家族様の写真等をおいている。	ベッド、筆筒、カーテンが備えられ、利用者や家族が持ち込んだ写真、色紙、陶芸品が飾られ、温もりのある落ち着いた居室となっている。高台に位置しており窓からは爽やかな風が入っている。冬期はパネルヒーターで温度管理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりのできること、少しお手伝いすればできることを理解して残存機能の活用を行いながら支援している。		